

# 平和の大切さを 伝えるために

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈  
念式が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内  
公立中学校の生徒代表16人を含む22人の平和使節団  
が参列し、原爆が投下された午前8時15分に黙とう  
をささげました。

また、各中学校の生徒や市役所に来庁した方々な  
どが、平和への願いを込めて折った千羽鶴約1万5  
千羽を「原爆の子の像」にささげてきました。

岡総務課(☎826・1111 内線2200)



■土浦市地区長連合会 飯嶋正之さん

平和記念式典に参加し、平和記念  
公園、平和記念資料館など見学し、  
あまりにも悲惨な現実と言葉も出な  
い立場に立たされました。人間の手  
によりもたらされた未曾有の大惨事の犠牲になられた  
方々に深く哀悼の誠を捧げます。一日も早くこの地球  
上に完全な平和が保たれる日が訪れるよう念願し、改  
めて68年間の先人の努力に思いをいたし絶対悪であ  
る、核兵器の廃絶と平和な世界の実現を願っています。

■土浦市女性団体連絡協議会 桜井芳子さん



平和記念式典に参加できることは  
思ってもいませんでした。毎年8月  
6日はテレビから平和記念式典の様  
子が中継され、自分も黙とうをした  
記憶を思い起こします。戦争を知らずに育った私達  
の世代は、「広島市の原爆の日」などと報道で知る事  
が出来ますが、遺族・犠牲になられた方々と同じ式  
典会場で平和を願った事。第二の広島があつてはな

らないと強く私の心に刻まれ、今回の式典参加は生  
涯忘れる事はありません。使節団の派遣を企画して  
くださった土浦市に感謝いたします。

■土浦青年会議所 内藤健一さん



平和記念式典を訪問するのは初め  
てでした。広島に行き、記念式典に  
参加することで今まで体験したこと  
がなかった戦争の恐ろしさや絶対悪  
を感じる事ができました。まず驚いたのが人の数  
で、様々な国の人々が広島この日に関心を持って  
集まっていることに驚きました。今まで、正直他人  
事で過去の出来事のひとつだと思っていましたか  
忘れてはならない、繰り返してはいけないという認  
識を改めて感じる事ができました。

■新治中 教諭 上田宗司さん



広島は3度目になりますが、訪れ  
る度に胸が痛くなります。特に今回  
は平和記念式典に参加させていただ  
き、広島市長の平和宣言の中で「家  
族を奪われ、かろうじて生き延びた原爆孤児がいま  
す。困難と孤独、病に耐えながら生き、生涯を通じ  
家族を持てず、孤老となった被爆者。『生きていてよ  
かったと思うことは一度もなかった』と苦しみを振り  
返り、深い傷跡は今も消えることはありません」と言  
われたことが強く印象に残り、命の大切さや平和と  
は何なのかを考える機会を与えていただきました。

■土浦一中 2年 細田東吾さん



以前から戦争に関する小説などを  
読んでいましたが、実際に広島を訪  
れ、行く先々で戦争と原爆に触れて  
みると、その痛みは想像を遥かに超  
えています。被爆地としての責任を、悲しみを超  
えて必死に果たそうとする人々の力になれるよう、  
この貴重な経験を大事にしたいです。

■土浦一中 2年 森 彩乃さん



私は今回、広島土地に立ち感じ  
たことは、広島の人々にとつては、  
戦争はまだ終わっていないという  
事です。今もなお、さまざまなこと  
に苦しんでいるのです。私は自分の無知と無力に恥  
ずかしい気持ちになりました。この感情と経験を、  
ずっと忘れないでいきたいです。

■土浦二中 2年 伊沢真優さん



人々が戦争で残した消し去れない  
事実を過去のこととするのではな  
く、真摯に受け止め、この過ちを繰  
り返さないという意識を一人ひとり  
が持ち続けることが大切だということが、さまざま  
な施設を回りよくわかりました。この体験を通して  
新しい仲間もでき、これらのことを共感し合い、親  
睦も深めることができました。

■土浦二中 2年 田中行哉さん



僕の広島へ行つての感想は、資料  
館や平和記念式典の空気がとても重  
く悲しいものだということです。テ  
レビではわからない何かを感じまし  
た。被爆した時のことや当時の生活などほぼ全てが  
資料館にのっていました。広島での体験を通して原  
爆の投下など色々なことについて学ぶことができました。

■土浦三中 2年 黒澤美空さん



平和使節団の活動を通して、原爆  
の恐ろしさなど、多くのことを学び  
ました。一番衝撃を受けたのは原爆  
ドームです。鉄骨はむき出しのまま、  
壁はボロボロで原形をとどめていないほどでした。  
日本が平和であり続けるために8月6日に起こった  
悲惨な出来事は一生忘れてはならないと思いました。

■土浦三中 2年 齋藤 陽さん



平和記念資料館で見た溶けたガラスや瓦、燃えた衣類、人。どれも鮮明に思い浮かべることができません。このような被害を世界で初めて受けただのが広島だと思つと、残念な気持ちでいっぱいになります。命の尊さ、平和の大切さを私たちの世代や、次の世代に伝え、よりよい未来を創っていきましょう。

■土浦四中 2年 浅野 雅さん



広島のパリ平和記念公園の中には平和の灯があります。それはいつまでも火がついていて核や戦争が無くならない限り火は消えることはないと思います。私は改めてこの世から戦争などが消えて一日でも早く平和な社会になり、火が消えることを願いました。

■土浦四中 2年 中村圭辰さん



原爆ドームは、核兵器の恐ろしさを僕達に語りかけているように、力強く建っています。平和記念資料館には、焼けこげた弁当箱や、けた皮膚など、数々の悲惨な展示物があり、それを見て二度とこのよつなことがあつてはいけなと思いません。僕は、今回経験し



たことを、伝えていき、多くの人々に平和の大切さを知ってもらいたいです。

■土浦五中 2年 石田悦之さん



僕は、広島に行つて色々なことを学びました。その中で一番印象に残っていることは、核の恐ろしさです。広島に落とされたたった一発の原爆で14万人の尊い命が奪われたのです。僕は、一日でも早く世界から核兵器が消えること、世界が平和になることを願っています。

■土浦五中 2年 中村玉朱さん



8月6日広島で起こったことは以前から知っていましたが、広島が一瞬にして消えていく光景を目にした私は強い衝撃を受けました。「原爆一つが多くの人の幸せな時間を奪ってしまうなんて『みん』な家族。誰もがそう思える世界にしたいと思いました。」

■土浦六中 2年 塚本康介さん



68年前、広島に原爆が投下され、街が破壊されました。焼け落ちた服、崩れた壁、戦争の悲惨さを現地で感じました。被爆者は、絶望や恐怖を感じ、戦争を繰り返さないと、強く訴えていました。戦争が忘れ去られていく中、僕は、平和を願い続け、多くの人に伝えていきたいです。

■土浦六中 2年 深澤夏鈴さん



68年前、一瞬にして街は破壊され、人々の尊い命が失われました。戦争や原爆については授業などで知っていましたが、初めて見た広島は、想像を遥かに超えていました。戦争は多くの人の命を奪っていきます。世界で唯一の被爆国として核兵器、戦争の根絶を呼びかけていくべきだと思います。

■都和中 2年 坂入瑞規さん



僕は、平和記念式典に参加し、戦争や原爆についての理解や平和への意識を高めることができました。戦後はまだ続いています。今も原爆によつて苦しんでいる人達がいいます。原爆が過去の出来事にならないように多くの人に伝えていく必要があると思います。

■都和中 2年 和田初花さん



平和使節団に参加し、原爆の恐ろしさ、平和の大切さを改めて学ぶことができました。平和記念資料館には、想像を絶するよつな展示物が数多くあり、「原爆の怖さ」を肌で感じる事ができました。平和使節団に参加させていただきありがとうございました。

■新治中 2年 飯島彩乃さん



なぜ広島に原爆が落とされたのか、親が死んでしまった子供たちはどのように生き延びたのかという疑問がありました。そこで、平和記念資料館を見学した際、いろいろ調べました。そこには、予想外の事が書かれていて、怖くなりました。とつろつろ流しや、千羽鶴の話や、このよつなことが二度と起こらないように、訴えていきたいです。

■新治中 2年 福田 光さん



広島で起こったことを次の世代に伝えるために核兵器廃絶を訴えていることと改めて誓いました。平和宣言で広島市長が「威嚇によつて国の安全を守り続けることができると思っています。小さか」と言いました。その通りだと思いました。小さなことから、いろいろなことに取り組んでいきたいです。(原文のまま)